

# 神奈川歯科大学 同窓会会報

Kanagawa  
Dental  
College  
Alumni

第96号 ©発行人/藤田 晃  
2003. 9. 1 ©編集人/小篠一雄・広報委員会  
©印刷所/神奈川新聞社出版局

## 新しい歯科大像を探る

司会・今回、藤田新執行部の最初の事業として、まず飯塚学長先生との対談を企画させていただきました。すでに多くの卒業生を輩出して、広く社会的にも認知された本学と、30周年を迎えた同窓会との、今後のより良い関係構築を目指して、様々な問題点を含めて、忌憚のないお話しをいただければ、と存じます。

まず、今の大学の運営状況は如何でしょうか。



学長・たとえば現在、中央省庁から求められているのが、学生の定員削減の問題。これは直接、大学の経営に関わることです。半ば強制的な要求ですが、大勢としてはそれに合わせざるを得ない。しかし、学生削減にともなう年間二千万から三千万円の費用をどうするか。これ以上、授業料は上げられない。理事長も大変だろうと思います。

会長・先日の法人理事との懇談会の席上、理事長が仰るには、大学は経理上、もうこれ以上学生を減らすのは困難だ、とお話でした。大学の安定経営という点から、何か同窓会でお手伝い出来ることがあれば、と思いますが。例えば、本学卒業生の子弟を、安定供給するなどの方法もあろうかと思えます。親としては、やはり自分の子供たちが母校で学ばせていただくことの安心感は、他に代えがたいものがあります。

学長・同窓会との良好な関係の中で、学生の安定供給があれば、確かに良いことです。まあ幸い、ここ一、二年は大学の人気が高まり、受験生が増加し、質の高い学生が多く入学してきました。この傾向が続いてくれば、と願ってはいるのですが(笑)。

司会・母校に子弟を通わせたいと願う同窓



生が多い一方、逆に他大学に預けたいという同窓生も少なくありません。母校の現状や特長などを広く卒業生にアピールするため、何かお考えがあればお聞かせ下さい。

学長・最近、学生の中から教員や大学に対する問題点を、指摘する声も寄せられるようになりました。それらに対して、きちんと問題を解決するように努めることが、まず大事なことだと思います。

会長・日本歯科大学の中原先生にお目にかかった時、学生が教授を評価するシステムを導入したとのお話がありました。

学長・学生による授業評価は相当以前から導入しています。評価用紙の最後に、自由な意見・感想を記入出来る欄を設けましたが、無記名だとどうしても無責任なことを書く者が出てくる。したがって、責任ある意見を書いてもらうため、記名にしようかと考えています。具体的に問題点が明らかになれば、たとえば問題のある教員と学生達に、直接面談させるのも一案か、と思います。

司会・大学のレベルをはかる目安の一つとして、「国家試験の合格率」があると思います。また、対外的には研究などの「学問的評価」も大切と思われます。研究面では、たとえば「再生医療」などのトピックス的な分野を、もっと奨励するなどしてはいかがでしょうか。

学長・「再生医療」は高次口腔科学研究所の先生方が鋭意努力しておられますが、専用の建物や研究室があるわけでもないのが残念です。大学としては、やはり学生優先ということで、まず学内に新しい校舎と実習棟を建て、さらに昨年は卒後研修のため、

横浜に研修センターを造りました。順序から行くと、次は病院の改築ということになり、なかなか研究方面にお金を掛けられないのが実情です。

司会・たとえば、研究面では企業体との提携、なども考えられるのでは？

学長・科研費なども限りがあり、それもひとつの方法でしょう。積極的に考えることかもしれません。

会長・結果として今回は採用されませんでした。COE(特色ある大学の支援プログラム)への応募論文は、かなり反響を呼んだと聞いております。また、日立との提携の研究では、歯科界以外からの反響もあり、こうした神奈川歯科大学の名を高めることに役立つのであれば、同窓会の奨学金制度なども、活用していただければ、と思います。

学長・金額の多少にかかわらず、それは大変有り難いことです。例えばライオンの富徳会というのは、元社長の小林富次郎さんが、口腔衛生と小児歯科関係の若手の研究者を援助する制度で、私も選考委員を長くやっていました。他にもいくつかありますね。

会長・研究者にとって、金の工面は難しい問題で、自分の経験からも、やはり内容のある研究に対しては、補助があれば、と思います。まず大学側がそれぞれの研究に対してきちんとした評価をし、それを情報として同窓会にご提供いただければ幸いです。学長・学内にまず、研究を正當に評価するための委員会を設置する必要があるでしょうね。これから財政緊縮の傾向の中で、各教室への研究費を含めた年度予算の配分を



一律に減じるのは得策ではなく、やはり研究内容の評価に応じて配分すべきですから。考えてみたいと思います。

司会・研究面で言えば、専門家の間では評価されるが、一般受けのしないもの、あるいはその逆もあると思います。ただあまりにも基礎のための基礎、のような研究では、一般開業医にとって臨床で何がどのように活かせるのか、分かりづらい部分があります。研究の評価委員会に、たとえば一般開業医も入れて、日々の臨床の視点から評価を加えるのも、一考では？

学長・それは良いですね。

会長・学会の理事との懇談会で、やはり日常臨床との関連性が希薄、そのため学会が開業医にとって縁遠くなってしまう、旨の意見がありました。

学長・いきなり直結しないまでも、やはり日常臨床につながる研究は必要ですね。学会理事も考えていると思います。学会雑誌にしても、学生も学会員であるにもかかわらず、彼等が興味のもてる記事内容がなく、開業医の先生方も同じ感想をお持ちだと思います。ひろく興味を持ってもらえるような編集改革を指示したこともあります。

会長・同窓会各支部に学会を移動して開催する案も出ております。お金はかかることですが、必要あらば同窓会として支援した

いと思います。

司会・本学出身者が、母校を誇りに思えるような活動をアピールすることが、ひいては入学志願者の増加にもつながるかと思います。研究面のみならず、学生教育、臨床実習なども含め、現時点で、何か他大学との差別化、あるいは特長など、お聞かせいただければ。

学長・ひとつは、横浜の研修センターが挙げられるでしょう。あれほど医科（内科、眼科、皮膚科、耳鼻科）と一緒にやっているところはないし、それを学生が全部見学出来ますし。

司会・横浜は風当たりは強かったでしょうが、衛星病院として必要であったと思いますし、土曜日診療しているのもとても重要な特長だと思います。

会長・それに関連して、卒後研修のための、従たる機関として同窓生の診療室を活用することも、今後増えるでしょう。

司会・同窓会もIT化を進めておりますが、大学の方ではいかがでしょうか。遠隔地の同窓も多数おられますし、情報の速やかな提供、という意味でも。

学長・一足飛びにはいきませんが、基礎的な事務の面では順次IT化を進めており、広く情報提供の出来る体制を整えつつあります。病院の内部も含めて。

会長・先生方のご講演の内容なども、同窓会員が自分達のコンピュータで閲覧出来るようなシステムも望まれております。たとえば先日学会でご同行した高橋和人教授の微小循環の実に美しいスライド写真など、ディスク化して希望者が入手出来るようにしては、とご提案しましたらご賛同をいた



できました。

学長・すでに個々でおやりになっておられる先生方もあり、そういう機会が増えるでしょうね。

会長・絵だけでなく、声を入れたり、著作権の問題など、いろいろ問題もあろうかと思いますが、もし実現出来れば、同窓会員にとって大きなメリットになると思います。

学長・現在、学生教育にもパソコンを取り入れていますし、これからはパソコンを活用することが普通になるでしょうし、ね。

\* \* \*

会長・2回生の清水先生、3回生の三宅先生、お二人の理事のご協力もあり、現在、理事会と教授会の議事録（抜粋）を私共執行部に開示していただけるようになりました。それによって、学内の状況の一端を知ることができるようになり、会員としても大学への期待感が高まってきつつあると思います。その上で、同窓会と大学との節度あるより良い関係を今後も模索していきたいと考えますが。

学長・理事会、教授会の議事録は秘密にすることではなく、それを知ることによって会員の大学に対する理解が深まるなら、おおいに結構だと思います。

会長・たとえば、国家試験不合格の学生などに対して、同窓会として何かお手伝いできることはありませんか。

学長・学生の質でいえば、近年は極端な成績不良者はいなくなりました。しかし、国家試験の国の基準が年々変化する中で、どうしても不合格者が出るのはやむを得ません。現在、現役の合格率は良く、あとは既卒者次第です。また、2回ある卒業試験の後の特別の追試では、本人の自覚に期待して通すことも多く、大学生に対する扱いとしてはそれが本当だとも思います。他大学では、敢えて卒業させず、合格率を上げるために国家試験を受けさせないところもあります。どちらが良いでしょうかねえ。

会長・外部からみると、やはり合格率はかなり注目される場所です。結果としてより良い学生が入学するためにも、先程お話しした優れた研究者に対する物心両面での支援など、より魅力ある大学のために、応援団として活動できれば、と思います。

学長・現在、ちょうど本学は第三の過渡期なんですね。講座の再編をようやく8割程度終え、その後、教授不在の講座の公募を始め、難航しているところもあります。そういう意味で、ひとつひとつ解決していく、といったところでしょうか。

会長・同窓会で一番困っているのは、既卒者の3割が未入会、しかも退会者が増加していることです。これを打開するためには、大学同様やはり魅力ある同窓会にしなければならない。また歯科界という一種独特な社会における同窓会の性格を考えると、いわゆる父母の会との接点も難しいものがあります。

学長・おおいに接点は持ってもらいたい。年一回の総会時や授業参観日など多数父兄がお集まりになりますので、懇親会の席上などで、同窓会長からお話をさせていただくだけでも随分違うと思います。

会長・大学、同窓会、父母の会とそれぞれがより良い関係を築いてゆきたいと思いません。

\* \* \*

司会・海外の大学との協力につきまして、お話しいただけますか。

学長・大学全体として、というのではなく、特定の研究室が海外の大学とそれぞれ協力し合っている、というところです。たとえば、矯正の佐藤教授がフィリピンの新設大学と協力関係の提携をしています。まずアジア地域から2、3か所と考えているようですが、むやみに姉妹校になったりすると、お金ばかりがかかって失敗することもあるようです。

会長・私は毎年、KADVOというボランティア・グループで、タイ王国のフリー・クリニックに参加しています。タイ王国官房長官で、個人的な知人でもあるカセー先生と先日話したら、タイの歯科大学と神奈川歯科大学との接点を作ろうじゃないか、と言われました。KADVOと連携して、本学とタイの大学（候補になっているのはマヒドン大学）との提携ができれば、と思えますが。

学長・それはいいと思います。まずきちんと調印して、提携関係から始めて、緊密な関係になったら姉妹校になっても遅くありません。

会長・臨床英語のマーチン・ピーターズ助

教授は、2年前からミズーリ大学のカンザス校に本学の6年生を連れて、病院見学、実習見学なども積極的に参加させていますね。そのようなことも、アジアの中で出来ればなお良いかと思えます。

学長・アジアは今後ますます大切ですね。会長・先日、理事長先生からも、同窓会の方から要望があれば、どんどん発言してほしい旨、お話しいただきました。ただ、いきなり要望をお伝えしに伺うのもいかがかと思えます。適宜、要望書のような形で、お伝えしたいとは思っておりますので、内容や時期などもご検討いただき、適切なご教示をいただければ幸いです。

学長・おおいにやって下さい。今後、さらに本学が魅力あるものになるため、教育や、その基礎となる研究も頑張っただけでなく、中々、臨床を重視し、カリキュラムなども臨床中心に考えてゆきます。そういう意味でも、開業医の立場、観点につながるものを、という点で、同窓生、同窓会との接点は、ますます重要になってくると思えます。他大学との格差を付けるという点では、まず関連医科との関係を重視するという意味で、横浜の研修センターがあり、これを当面、本学の大きな特色としてアピールしていきたい。地域に対して広報活動も積極的に行い、医科の先生方は毎月、地域住民のための講演会をする予定です。

司会・神奈川県同窓会の学術としても、講演会等でお世話になり、特に神奈川在住および近隣の会員はすでに恩恵を受けています。

学長・地方の支部でも、早くから申し込んでお招きすれば、大変有意義な隣接医学の

講演会になると思いますよ。また、講演といえ、学生に対する臨床講義などで、同窓の開業医をお迎えしてお話ししていただくと、かなり熱心に聞くようです。こういう機会も、今後増やしていきたいと思えます。

司会・地元の公立病院が、解放型のシステムを導入し始めており、今後、大学病院もこれに対抗してゆかねばと思えます。

会長・自分が横須賀歯科医師会の会長時代、大学病院のオープン化を推進しましたが、紹介患者さんが紹介元先生のところに戻らないケースがかなり多く、現在、頓挫しかかっている状況です。

学長・横浜でも同じような事例が多いと、寺中センター長が言っておられました。

会長・自分が言い出したことでもあり、今後も推進してゆきたいと思っています。学長・豊田病院長も、積極的に考えておられますので、どんどん関わっていただきたいと思えます。同窓会の皆さんも、母校にいらした時は、遠慮なく発言していただきたい。研究、教育、何でも結構ですから。司会・長時間にわたって、貴重なお話を有り難うございました。今後とも、本学のさらなる発展のために、ご高誼のほどよろしくお願い致します。

(了)



歯科専用レセプトソフト

# QURIA

302F

**キュリアは、レセプト業務を究極まで追求した先進のソフトです。**

QURIAは、変化する歯科レセプトの様々な要求に応える独立型パッケージソフトです。常に歯科医院の現況状況を把握し、ドクターの意見を反映してつくられるQURIAは、歯科医院のもう一人の頼れるアシスタントなのです。



※本製品はハードウェアは含まれておりません

ミックだから実現できた、価値ある価格。

550,000円

歯科専用レセプトソフト「キュリア」

●ミックの製品に関するお問い合わせはミックサービスセンターまで



歯科総合情報システム

# LAPEC-X

Essential dental tools. Compute into the future with MIC always advancing technology.

**人と情報を繋ぐ高次元ネットワークシステム**

「LAPEC-X」は多様化する歯科医院業務の中で、システムネットワークという大きな概念と、それぞれのプログラムの中での使いやすさという小さな視点を兼ね備えたシステムです。パーフェクトカルテの作成と歯科医院を取り巻く様々な情報の一元管理を実現させる「LAPEC-X」は、まさに、進化し続けるシステムです。

LAPEC-X (ネットワークモデル)	LAPEC-X (スタンダードモデル)
2,200,000円	2,100,000円
(1サーバ・2クライアント)	

MIC SERVICE CENTER

0120-392-396

AM.10:00~PM.5:00 土・日・夜間を除く

ミックでは、お客様のご要望やご質問に素早く的確に対応できるように、サービスセンターを開設しています。

●ソフト開発・発売元

医療・文化・福祉への貢献

株式会社 ミック

本社/〒160-0022 東京都港区赤坂1-9-2 世田谷ビル TEL.03-3360-1661 FAX.03-3366-0848  
 ■札幌支店 ■仙台支店 ■福岡営業所 ■さいたま支店 ■東京支店 ■横浜支店 ■松本支店 ■大阪支店 ■広島支店 ■福岡支店  
 ●ミックは情報発信基地をめざし、ホームページを開設中です。 <http://www.mic.jp> e-mail:info@mic.jp

※掲載の歯科専用レセプトソフト「QURIA」及び歯科総合情報システム「LAPEC-X」の表示価格は標準価格です。 ※すべての価格は、ソフトのみのもので、また消費税は含まれておりません。